

岡山県職業能力開発審議会議事概要

日 時：令和 8 年 3 月 1 6 日（月）

1 5 時 0 0 分～1 7 時 0 0 分

場 所：ピュアリティまきび 飛翔

発 言 者	発 言 要 旨
事 務 局	<p>【議題 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 1 次岡山県職業能力開発計画の進捗状況について
-委員意見-	(意見なし)
事 務 局	<p>【議題 2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 2 次職業能力開発基本計画（案）について（国） ・第 1 2 次岡山県職業能力開発計画の策定について
-委員意見-	
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業が新卒採用を希望しても、人手不足の現状では人材が大企業に流れてしまう。可能であれば離職者を企業に紹介する制度があればいいと考える。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者についてはどうか。県立高等技術専門校に外国人の在校生はいるのか。希望すれば受け入れてもらえるのか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、外国人の在校生はいない。研修という在留資格であれば入校は可能であるが、一度帰国しなければならず、すぐに就職できないという課題がある。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・そこを改善してもらえれば、門戸が開かれる可能性がある。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・在留資格については、国が検討していると聞いている。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・自社では、人材確保や入社後のモチベーション維持を図るため、技能グランプリや技能五輪での受賞を目指す環境を整備してきた。また、若手社員の定着のためには受け入れる側のリーダー層や経験豊富な社員のソフト面、メンタル部分をアップデートする教育が必要と考え、外部委託により若い人のメンタルを理解したうえで指導できるリーダーの育成に取り組んでいる。

発 言 者	発 言 要 旨
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・花の業界で困っているのは人材不足。その一方で、自分は生花店や高校生、大学生などを対象にスタッフを養成しているが、その生徒がせつかく資格を取っても、生花店からの需要がない。家族経営のところが多い。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・社員の技能を高めるためオンラインなどを活用してセミナーを促している。常に個人のスキルを向上させることが最も重要であると考えている。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・新卒が採用できず高齢化が進行している企業もあり、技能の伝承の危機を感じている。現場の社員の勉強のための時間を確保することが困難であり、OFF-JTの実施も難しいのが現状である。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・大手企業は多くの人材を採用するが、退職者も多く、中には教育を受けることを目的に入社する方もいると聞く。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・昔のように企業側が従業員に一方的に教育を与える時代は終わりつつある。今の時代は従業員の自律的なキャリア形成が求められており、それにはセルフキャリアドックが役立つと考える。 ・最近の若年層は短期間で退職する傾向があり、その背景にあるのは、会社や自身の先行きが見えない、不安定な時代に対する不安である。その結果、個人のスキル向上や転職活動を重視する傾向が強まっている。 ・社員が主体的にキャリアを考えていく時代になっており、自身のキャリアを考えて、その延長線にある資格、キャリアアップでないと意味がなくなっている。企業は、可能であればキャリア面談の機会も提供することが望ましいと考える。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・OTEXは県が販路拡大を主題に開催しているが、5年位前から多くの高校から生徒が来場するようになった。若者に、ものづくりへの関心をもってもらい、岡山の企業を知ってもらうことで、将来的な人材確保に寄与するため、今後も継続すべきである。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・どの業界でもストレス関連の病気で休職している人が大変多い。人にも優しい、安心して働ける場所であることは若い人にとっても魅力があるのではないかと思う。

発 言 者	発 言 要 旨
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校は、比較的卒業後（進学ではなく）就職する生徒の数が多いが、工業高校の入学希望者が増えなければ将来的に就職者数も減少するため、各学校は様々な方法でものづくりの楽しさ、目的ややりがいを発信している。 ・また、就職する生徒のうち約8割は地元志向であるため、各校で地域を支える人材の育成に努めているところである。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する法人では、企業向けの研修を実施しているが、人手不足や研修に充てられる時間の制約を理由に、コロナ禍前に比べ大きく参加者が減っている。 ・今、各企業が関心があるのは女性の活躍推進だと感じている。ロールモデルがない会社も少なくない中、セミナー等で他企業の同じ立場の人同士が交流し、学び、それを持ち帰って企業で活躍することが求められているのではないかと考える。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・職業能力開発に、適応力や責任感等、企業がほしい能力を訓練するというところを取り入れるべきではないか。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化できない、人でしかできない部分、人の手による価値創造や技術の伝承が、岡山のものづくりの強みと思う。この強みを産業政策に反映させることが重要である。